

与中だより

文責：校長 上原尚善

平成28年7月8日（金）発行

第6号

与那原町立与那原中学校

電話：946-2254

与那原町少年の主張大会開催する

7月6日（水）本校体育館において与那原町青少年健全育成町民会議主催第29回与那原町少年の主張大会が開催されました。本校生徒全員が主張の作文を書き各学年の国語担当で書類審査を行い、各学年男女1名の代表計6名が本大会に臨みました。自分の思っていることを文章にすることも難しい中、日頃の部活動等の生活の中で感じたことや、家庭での

出来事を通して感じたことをしっかりまとめ、堂々と発表し、聴衆を引き付けていました。審査員を代表して辺土名清子さんから「家庭、学校、地域で日々を大事に生きていること。お互いが理解しあうことが大切であること。言葉の重さ、大切さ、大事さが伝わったこと。素晴らしいことです。」との講評がありました。

審査の結果砂川海空さん（3年）が優秀賞を受賞しました。海空さんは9月に開催される島尻地区大会に与那原町代表として出場します。裏面に原稿掲載しています。



意見を発表する
砂川海空さん

発表者と演題

学年	氏名	演題
1	名嘉真梨奈	世界とのコミュニケーション
1	嘉数歩	技術を発揮するために
2	知花果歩	親しき仲にも礼儀あり
2	崎原結斗	あたりまえのありがたみ
3	砂川海空	ひとりじゃないから
3	秀島徳亮	こぼれてしまう前に



大会役員と発表者記念写真

PTA作業実施する

6月26日（日）にPTA環境整備委員会主催のPTA作業を実施しました。校庭の除草作業を中心に作業を行い、伸び放題の草が刈り取られ、校庭が綺麗になり、全体的に明るい雰囲気になりました。生徒職員共に気持ちよく学校生活を過ごすことができます。日頃忙しく過ごしている保護者にとっては貴重な休日だったと思いますが、多くの保護者のご協力に感謝申し上げます。そして、部活動の生徒の協力もあり、刈り取られた草等の片付けもスムーズに行われました。ありがとうございます。次回は2月に予定しています。



PTA作業の保護者の皆さん

裏面もあります

「独りじゃないから」

3年 砂川 海空

「与那原ファイト！」「海空、頑張れ！負けんな！」

四方八方からの声援が試合会場を一気にのみこみました。心臓が張り裂けそうで緊張からか、薙刀を握る手に力が入りました。気持ちが相手のペースにもっていかれ、「もうダメだ。」となりかけた時、声をかけてくれたのが同じ薙刀部の仲間達でした。

「集中一本！ファイト！」「いつもの動きで頑張ってください。」今思えば、この言葉がなかったら負けていたかもしれない、そんな試合でした。結果、私たちのチームはこの大会で優勝することができました。私が3年間、薙刀を続けてこられたのは、薙刀部の仲間や周りの人の支えがあり、独りじゃなかったからです。

しかし、入部したての頃の私は、そのような考えではありませんでした。私は中学1年の頃、何でも「一人でできる」と思い込んでいて、部活では先輩の話しやアドバイスを聞き流したり、母に対して些細なことで反抗したりと、周りの人の声に、ありがたみなど一切感じようとしませんでした。

そんな私が周りの人に感謝の気持ちを持ち始めたのは、中学初めての大会でした。初戦敗退して一人黙って座っていた私に、先輩が近寄ってきて、

「お疲れさま！頑張ってたね！」と話しかけてくれました。普段からよく言われていた言葉なのに目にはいつの間にか涙があふれそうなくらい溜まっていたのです。そして、「たまには頼っていいんだよ。一人で頑張りすぎだよ。」と先輩は笑顔で言いました。次の瞬間、私の心の奥にせきとめられていたものが、一気にあふれてきました。今まで、「周りに頼る」という選択肢が無かった私にとってその言葉は救いの一言でした。そして、その日から何でも「一人でできる」という考えは少しずつ消えていきました。またそれとは別に新しい考えを持つようになりました。それが、周りの人に対する感謝の気持ちを持つことでした。今では、先輩の存在があったからこそあの時、自分は変わったと思います。このことがきっかけとなり、私は一人でできないことは、友達や部員に協力してもらうことが増えました。調子が悪い時には声を掛けてもらったり、重い物を持っている時や作業にてこずっていたら周りが気付いて手伝ってくれるようになり、以前より私を気遣ってくれています。

ところで、私を支えてくれたのは、仲間や友達だけではありません。それは私の一番近い存在である母です。私が友達と喧嘩をして落ち込んでいると、何も言わなくても「今日、何かあったの？」と声をかけてくれました。他にも、私が福岡派遣から帰ってきて、高熱を出して寝込んでいたときも、仕事で忙しい中、頻繁に電話をかけてくれたり、帰ってきたら何度も私の部屋を出入りして飲み物や体温計を持ってきてくれました。母はどんなに私が迷惑をかけても黙って助けてくれます。ちゃんと「ダメなことはダメ」と叱ってくれます。反抗してもちゃんと向き合ってくれます。辛いこともあるはずなのに、私と弟の為に、弱音を吐かずに頑張ってくれています。そんな母の姿を15年間、毎日見てきました。振り返ってみるといつも陰ながら支えてくれたのは母でした。私は本当に母を尊敬し、感謝しています。

母以外にも私を支えてくれる人はたくさんいます。周りの人が支えてくれるから、今の私がいるのです。

今、悩んでいる人がいたら周りに頼ってみるのはどうでしょうか。実際、私は周りの人に救われた人の一人です。頼ることによって、人の優しさに触れ、感謝することができ、「独りじゃない」と思えるようになりました。周りを見れば、必ず支えてくれる人がいて、決して独りではないのです。

これからは、私を支えてくれた人達のように、私も誰かを支えてあげられる人になりたいです。